

岡崎氏館跡(入間郡越生町) 築城年代:鎌倉時代、築城者:岡崎有基

正面前方が岡崎氏館跡/右手は越生町郷土資料室



岡崎氏館跡には岡崎薬師が建っている/手前に説明板が立っている



越生秋の七草めぐり

フジバカマ

岡崎薬師の由来

平安朝末期から鎌倉初期にかけて、武蔵権守越生次郎家行の一族に越生新大夫有行と云う武士が当地にいた。

その子有弘、有頼、有平の三兄弟があり、右馬允有弘は、越生氏を継ぎ、越生四郎有平の子有年は鳴瀬（成瀬）氏を、有光は黒岩氏を、有基は岡崎氏をそれぞれ興した。この岡崎四郎二郎有基が岡崎氏の始祖であり、岡崎薬師参道北側一帯が岡崎氏の館跡である。

そして又、この岡崎薬師が、鎌倉、南北朝時代に各地に転戦した越生氏一族の、現存する唯一の遺跡である。

「承元二年（一二〇八）岡崎四郎二郎有基同所二居室ヲ構工、一時キ守本尊ノ故ヲ以テ此処ニ安置スト云フ、其後不明也ト雖モ寛文八年（一六六八年）全郡正法寺住職椿山再造ス」と堂庵明細帳に記述されている。又、同帳に云う本尊薬師如来、堂間口二間奥行二間半、境内地百六十四坪境外所有地四筆、境内三百三拾七坪、信徒二百拾五人（講中を含む）と。

本堂構築物中、須弥壇附近の蛙股、欄間、丸柱の形式からして、室町末期から江戸初期のものとして推定出来、昭和初年の県調査の折、本尊の台座は鎌倉期のもものと云われたことからして、前記堂庵明細帳の記述は正しく、享保十六年（一七三一年）作の厨子からしても、それ以前に堂宇の存在を意味し、元文元年（一七二六年）再造すとあるのは、須弥壇付近を残して本堂外郭を改修したのが事実である。

平成十三年三月吉日

岡崎薬師信徒総代 新井正一 記

馬頭観世音の石碑もある



手前に「越生氏分家・岡崎氏館跡」の標柱が立つ



下に「鎌倉初期、岡崎有基が興した岡崎氏館。此处が当時の岡崎村の中心」とも記されている



岡崎薬師の薬師堂/左手に「岡崎薬師」と記された標柱が立っている



薬師堂内部



薬師堂右手の様子/館跡の雰囲気を感じられる平場となっている/右手前に石像が立っている



これがそれ



振り返って見る



薬師堂前



参道方向を見たところ/この左手一帯が岡崎氏館跡という



左側から薬師堂を見たところ/左手に赤い鳥居がある



岡崎稲荷が横にある



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/143okazaki/okazaki.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/4370684>

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/57612599.html

http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/okazakiyakusi_yakata.html

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/02_iruma/012_ogose/ogose.html

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.irumagunn.html>

<http://www43.tok2.com/home/yo1029/photo1963.html>

